

公刊にあたって

皆さまのご協力のおかげで、本年も「図説 わが国の慢性透析療法の現況 2014年12月31日現在」(以下、「図説現況」という)を公刊することが出来ました。公刊にあたり、多忙な日常診療の中、日本透析医学会の統計調査にご協力いただいた透析施設の皆様に深くお礼申し上げます。

これまで6月に速報値集計の図説現況を、11月に再調査を終えた確定値で「わが国の慢性透析療法の現況CD-ROM版」(以下、「CD-ROM版現況」という)を発行してまいりましたが、本年の図説現況とCD-ROM版現況は、再調査を終えた確定値で全ての集計を統一しております。

2014年末調査の回収状況、および新規調査・解析結果についてご報告します。

例年通り日本透析医学会会員施設に加え、非会員施設、新規開設施設も対象として行われました。2014年末の対象施設は4,367施設で、前年より42施設増加しました。締め切りは例年通り1月末でしたが、再調査も含め、8月7日を最終期限としました。その結果、施設調査票にご協力頂いた施設は4,330施設(99.2%)であり、目標とした98%以上の回収率を達成することが出来ました。施設調査票と患者調査票の両方にご協力頂いた施設は4,191施設(96.0%)であり、目標とした95%を達成することが出来ました。また、調査票の回収媒体の比率は、電子媒体(主にUSBメモリ)による回収が3,764施設(86.9%)と向上し、データ処理がより正確に行われ、かつ簡素化が達成されました。2015年末調査からは厚労省・文科省の新しい倫理指針に準拠した調査を行うため、匿名化の強化を行い、それに伴って患者調査はUSB調査のみとなります。

これまでJRDR調査では、皆様の日常臨床にリアルタイムで有効な情報を還元するために、各年度で様々な新規調査項目を設定してきました。しかし2014年末調査は、匿名化強化のシステムの構築を最優先にしたため新規調査は行いませんでした。そのため、今回の図説現況にはJRDRハイライトという新たなページを設けました。これまでに統計調査データベースを用いて、統計調査委員会委員と2008年から開始された公募研究により論文化され、世界に発信された研究の一部をダイジェスト形式で掲載しています。皆様のご協力で成り立つ統計調査が、わが国の透析治療だけでなく世界の透析治療に方向性を与えていることを実感していただけますと幸いです。

「CD-ROM版現況」には調査項目別に、約4,500の帳票を掲載しており、会員の皆さまの興味を満たす内容が満載されておりますので、皆さまの日常臨床にお役立て下さい。また、2012年から「CD-ROM版現況」等の全ての統計資料を日本透析医学会のホームページの「会員専用ページ」を通して、正会員だけでなく、全ての施設会員が閲覧することが可能となりましたので、ご利用いただければ幸いです。

日本透析医学会の統計調査は、ほぼ全数調査と言える回収率ゆえに、バイアスのない透析患者の詳細なデータベースとして世界的に評価されています。そして、そのデータベースは全国の透析施設の皆さまの献身的なご協力によって維持されております。この世界に誇るべきデータベースを利用して、会員の皆さまの日常臨床に寄与する情報を提供すること、わが国の透析医療の形を世界に向けて発信していくことが日本透析医学会の重要な使命と考えております。本学会の統計調査にご協力頂いた皆様、ならびに全国の地域協力委員の先生方に重ねてお礼申し上げます。

一般社団法人 日本透析医学会
理事長 新田孝作
統計調査委員会委員長 政金生人